

2011年7月10日パークOツアーin 関西 2011 和歌山大会（和歌山県海南市 わんぱく公園）

平年よりも10日以上早く梅雨明けした関西（近畿地方）。オリエンティアを待っていたのは、いきなりの真夏日とアップ率7%の難コース。この日、和歌山の最高気温は、31.5℃。熱中症にはくれぐれも、気をつけてとわれわれスタッフは、コースを送り出しましたが・・・。

暑さに負けない

プログラムでも熱中症予防を呼びかけて、会場にも冷水を用意できたり、また、多くのクラスで途中に会場付近を通るレイアウトを利用して、自主給水を行ったりということも有って、無事大会を終えることができました。

この時期の大会は、優勝設定タイム45分以上で設けなければならないという規則よりも手厚く、給水所を用意するほうがよさそうです。

お約束のロングレグ

パークOツアーin 関西をこのわんぱく公園で開催するのは、2007年12月以来の3回目。400m四方の決して広いとはいえない公園で、コースに変化をつけるのは、やはり、ルートチョイス。それも、公園の西北から南東へ端から端までを一気に結ぶロングレグは、過去の大会でも使われているとはいえ、コントロールの30m程度の微妙な位置の違いや、コースのなかのどの部分、スタートから1番へのレグになるのか、終盤に使うのかでも、ルートチョイスが異なってきます。

今回は、会場を公園の中央よりの池のほとりの広場に持ってきたことから、このロングレグを2マップのうちの1枚目の6番から7番に持ってきました。会場北側の尾根を一回越え、公園北側の尾根の北斜面でショートレグをこなしたあと、一気に公園の南東の端へという流れです。

おもなルートは3つです。池沿いの遊歩道をひたすら走るもの。やっぱり距離は長くて、直線で400mのところ2倍以上の960m。多くのランナーが取ったのが3番付近から南へ尾根を越える道を使うルート。距離は20%以上短くて



海南市 わんぱく公園

MA, M35			
	I	2.7 km	200 m
▶	△	△	○
1	106	△	
2	114	△	
3	115	△	△
4	116	△	
5	117	△	○
6	118	△	△
7	123	△	△
8	122	△	○
9	121	△	△
10	119	△	○
11	124	△	○

○----- 40 m -----▶△

730mですが、コンタ10本分の登りが体にこたえます。長いのもきつい登りもイヤだ！というランナーは、3番付近から、公園のゲートを出て、高速道路沿いを地図の端まで迂回するというルートを取っています。南の端でかなり余計に下るのですが、それでもアップは真ん中ルート半分程度。距離のほうは、池沿いルートからやや短い900mでした。

前回の大会の上位者のルートをwebに上げているので、今回優勝のOLP兵庫の大江さんは、ラップ表と見比べながら、かなり研究をしてくれていたそうです。「ロングレグは、尾根越えしかない！」とレースに臨んだのでしょうか。このレグは、序盤のオーバーペースがこたえ、徐々にきつくなってきていたそうですが、それでも秒差の3位にまとめています。

地図交換まへの油断

少ないスタッフの運営ゆえ、スタート・フィニッシュ・地図交換を会場付近に集めたレイアウトになっています。そのあたりのコースの書き方はややこしいのですが、11番をビジュアルコントロールのようにして、そこから地図交換所へテープ誘導という形にしています。

2007年大会でもこのような形で地図交換をしたのですが、この地図交換前のコントロールをパンチし忘れるペナが、前回につづいて今回も複数でました。

見せる・見られるオリエンテーリングが工夫されるなか、集中を乱してパンチ忘れることのないよう、注意していきたいものです。

子どもたちも元気

地元の小学校の高学年対象に、大会の案内を配布したこともあって、4組10名の小学生が参加してくれました。個人クラスより、30分早く競技を進行したこともあり、1.2kmのコースを1時間程度のタイムでフィニッシュしていました。表彰式を待つ間にもぎやかな声が聞こえてきて、運営の私たちも元気付けられました。（楠見耕介）

